

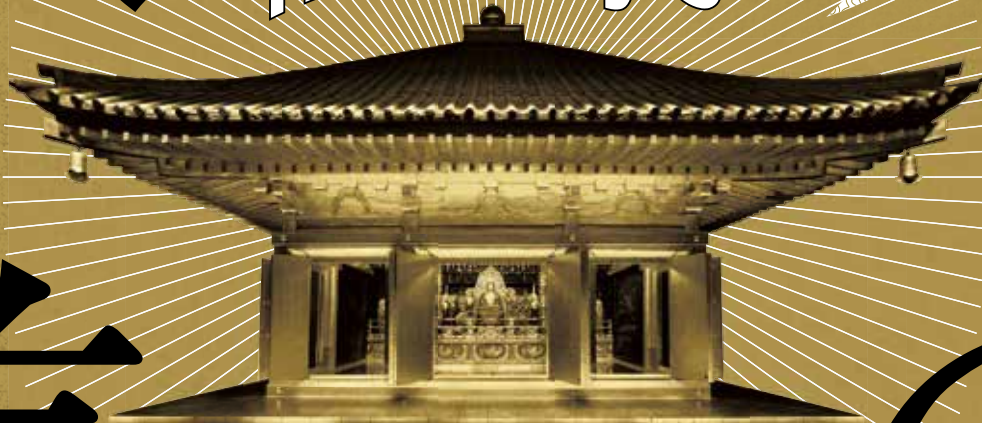


岩手平泉の地に咲いた
平安の荘厳美にせまる

Hiraizumi Symposium in Tokyo

平泉の 仏教 美術

の 平泉学シンポジウム



中尊寺金色堂

2024.11.10.SUN

平泉学シンポジウム

世界遺産平泉研究の現在

開催日時

令和六年十一月十日(日) 13時~16時30分

会場 一ツ橋ホール(東京都千代田区一ツ橋2-16-2)

入場無料(事前申込必要)

講演Ⅰ 中尊寺金色堂の日本史的意義

講演Ⅱ 平泉の仏教建築―中尊寺金色堂について―

講演Ⅲ 中尊寺の仏教美術―仏像について―

お申し込み
詳細はこちら



金銅華鬘
中尊寺蔵

平泉学シンポジウム in 東京

世界遺産平泉研究の現在 —平泉の仏教美術—

開催日時

令和六年

十一月十日(日)

13時～16時30分

会場

一ツ橋ホール

(東京都千代田区一ツ橋2-6-2)

入場無料

対象:一般

事前申込
必要

平安時代末にみちのくの地に築かれた平泉文化は、浄土思想に基づいた奥州藤原氏の平和を願う思想とともに、仏教建築や浄土庭園、考古学的遺跡群として現在まで残り、2011年に世界遺産登録されました。今年、平泉の文化遺産を代表する中尊寺金色堂が建立されて900年になります。今回、平泉の仏教美術を中心に、研究の最新動向と平泉文化の魅力を、各分野の第一人者からご講演いただきます。

講演内容

講演Ⅰ 中尊寺金色堂の日本史的意義



講師 佐藤 信 先生 (東京大学名誉教授)

中尊寺と金色堂は、藤原清衡が平泉世界の中心として営んだ精神的基盤である。平泉の歴史文化を象徴するこの文化遺産が、列島として東アジアで果たした歴史的意義を、再検証する。

講演Ⅱ 平泉の仏教建築 —中尊寺金色堂について—



講師 清水 真一 先生 (徳島文理大学教授)

平泉文化を代表する仏教建築として、現存する中尊寺金色堂は当時の浄土思想を顕著に示す仏堂であり、多くの研究が行われてきた。日本建築史上も重要なこの仏堂の意義と研究の現段階を紹介する。

講演Ⅲ 中尊寺の仏教美術 —仏像について—



講師 奥 健夫 先生 (武蔵野美術大学教授)

中尊寺には金色堂三壇の諸像をはじめ多数の仏像が伝わり、その影響は広く周辺地域に及んでいる。平泉文化を考えるうえで重要なそれらの作例について研究の現況を紹介し論点を解説する。

参加申込方法 参加希望の方は、事前申し込みが必要です。

①WEB (peatix応募フォーム) からの参加申込

右記QRより申込ページへお進みください。

※Peatixのご利用にはアカウント登録などが必要になります。



申込締切
2024年
11月4日(月)

※ハガキ応募の場合は
10月31日(木)必着

②FAXによる参加申込: FAX 019-629-9170

代表者名、申込人数、ご住所、電話番号をご記入うえ上記FAXへ

③ハガキによる参加申込 送り先: 平泉学シンポジウム受付事務局

代表者名、申込人数、ご住所、電話番号をご記入うえ下記受付事務局までハガキ応募10月31日(木)必着

受付事務局及びハガキ・FAX送り先: 平泉学シンポジウム受付事務局(株オリンピア企画)

対応時間 平日9時30分～17時30分 TEL 019-654-1231

〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原3-3-8 正和ビル2階

・会場

一ツ橋ホール 東京都千代田区一ツ橋2-6-2

・最寄り駅のご案内

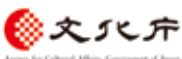
地下鉄都営新宿線・東京メトロ半蔵門線神保町駅(A1出口)下車徒歩3分

地下鉄都営三田線神保町駅(A1出口)下車徒歩5分

東京メトロ東西線竹橋駅(北の丸公園側出口)下車徒歩5分

東京メトロ東西線九段下駅(6番出口)下車徒歩7分

JR総武線水道橋駅(西口出口)下車徒歩15分



令和6年度文化庁文化芸術振興費補助金

主催/世界遺産平泉保存活用推進実行委員会、岩手県、岩手大学 後援/一関市、奥州市、平泉町 協力/中尊寺、毛越寺

申込事務局/株式会社オリンピア企画 TEL 019-654-1231 (平日9時30分～17時30分)

シンポジウム全般に関するお問い合わせ先/世界遺産平泉保存活用推進実行委員会事務局(岩手県文化スポーツ部 文化振興課) TEL 019-629-6486

FAX 送信表

代表者名

住所

電話

申込人数

